

テンジクダイ科魚類7種の屋久島における初記録

著者	"吉田 朋弘, 藍澤 正宏, 本村 浩之"
雑誌名	Nature of Kagoshima
巻	37
ページ	119-125
別言語のタイトル	"Seven new records of cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) from Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan"
URL	http://hdl.handle.net/10232/18103

テンジクダイ科魚類 7 種の屋久島における初記録

吉田朋弘¹・藍澤正宏²・本村浩之³

¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 (水産学研究科)

² 〒 100-8111 東京都千代田区千代田 1-1 宮内庁

³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

はじめに

テンジクダイ科 (Apogonidae) は世界で約 23 属 273 種 (Nelson, 2006), 日本国内からは 18 属 96 種が知られている (Matsuura and Tachikawa, 1994; 林, 2000, 2004; Mabuchi et al., 2003, 2004; 吉郷・吉野, 2004; 宮原ほか, 2005; Greenfield et al., 2005; 渋川ほか, 2007; Fraser, 2008; Fraser and Allen, 2010; Yoshida et al., 2010).

屋久島におけるテンジクダイ科魚類の報告は Jordan and Starks (1906: *Amia notata* として) が報告した *Apogon notatus* が初めてである。その後、新井・井田 (1975) は屋久島の北西に位置する楠川にて採集された標本に基づき 2 属 4 種を報告した。市川ほか (1992) は水中観察によって確認された 3 属 10 種を報告したが具体的な地名などは記載されなかった。国安 (1999) は屋久島の南西に位置する栗生にて水中観察によって確認された 2 属 12 種を報告した。吉田・本村 (2009) は安房川で採集されたアマミイシモチ *A. amboinensis* Bleeker, 1853 を報告した。Yoshida et al. (2010) は過去の報告をまとめ標本と水中写真に基づき、屋久島周辺海域には 11 属 45 種が分布するとした。

今回、千葉県立中央博物館分館・海の博物館における標本調査で屋久島初記録のテンジクダイ

科魚類の標本が新たに 7 種見つかったため、追加報告する。そのうちヒトスジイシモチ *Apogon fraenatus* Valenciennes, 1832 とカスリイシモチ *A. kallopterus* Bleeker, 1856 は水中写真に基づく報告のみ (Yoshida et al., 2010) であったが、標本に基づく屋久島初記録となる。

本研究により屋久島周辺海域には 13 属 50 種が分布することが判明した。その内訳は、標本に基づく 36 種、水中写真に基づく 11 種、過去の報告のみ (市川ほか, 1992; 国安, 1999) で水中観察によって確認された 3 種である。

材料と方法

計数・計測は Fraser (2005) に従った。計測は顕微鏡下でデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。標準体長 (standard length) は体長あるいは SL と表記した。各種のシノニムリストには原記載と屋久島からの記録のみを示した。本報告で用いた標本は千葉県立中央博物館分館・海の博物館 (CMNH), 北海道大学大学院水産学研究科 (HUMZ) および横須賀市自然・人文博物館 (YCM) に所蔵されている。

屋久島産追加テンジクダイ科魚類リスト

Apogon fraenatus Valenciennes, 1832

ヒトスジイシモチ (Fig. 1)

Apogon fraenatus Valenciennes, 1832: 57, pl. 4, fig. 4 (type locality: New Guinea); Yoshida et al., 2010: 37, figs. 13A–B (Isso, Yaku-shima Island).

Yoshida, T., M. Aizawa and H. Motomura. 2011. Seven new records of cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) from Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 37: 119–125.

☑ TY: Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k5299534@kadai.jp).

標本 CMNH-ZF 10807, 体長 23.4 mm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊タンク下 (30°27'17"N, 130°29'29"E), タモ網, 2004年5月12日; CMNH-ZF 14262, 体長 88.1 mm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊 (30°27'13"N 130°29'26"E), タモ網, 2005年10月31日.

記載 背鰭条数 VII-I, 9; 臀鰭条数 II, 8; 胸鰭条数 14; 腹鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 24; 側線上方の横列鱗数 2; 側線下方の横列鱗数 6; 背鰭前方鱗数 4; 尾柄周鱗数 12; 総鰓耙数 $3+14=17$; 櫛歯状に発達した鰓耙数 $2+9-10=11-12$. 尾柄後端中央に黒色斑がある. 1本の明瞭な黒色線が吻端から鰓蓋後縁を経て体側中央を通り尾柄黒色斑付近まで達する.

固定標本の色彩 体全体は枯草色, 尾柄後端中央に黒色斑がある. 吻端から鰓蓋後縁を経て体側中央を通り黒色斑付近まで1本の明瞭な黒色線がある. 第1背鰭第1棘の鰭膜基部から第1背鰭第5棘の先端にかけて黒色を帯びる. 第2背鰭は基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する. 臀鰭は透明であるが, 基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する. 胸鰭と腹鰭は透明. 尾鰭は透明で上下両葉の縁辺は黒い.

備考 本種はインド・西部太平洋に広く分布する (Allen et al., 2005; Randall, 2005). 日本では三宅島 (林, 2000), 八丈島 (Senou et al., 2002), 和歌山県 (林, 2000), 柏島 (平田ほか, 1996), 屋久島 (Yoshida et al., 2010; 本研究), 奄美大島 (Kamohara and Yamakawa, 1965), 伊江島 (Senou et al., 2006), 沖縄島 (吉郷ほか, 2005), 宮古島 (Senou et al., 2007) および西表島 (林・岸本, 1983; 吉郷ほか, 2001; 吉郷・中村, 2002) から報告されている.

ヒトスジイシモチの屋久島における記録は水中写真に基づくもののみ (Yoshida et al., 2010: figs. 13A-B) であったため, 本報告は標本に基づく本種の屋久島初記録である.



Fig. 1. Preserved specimen of *Apogon fraenatus*. CMNH-ZF 14262, 88.1 mm SL, Isso, Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan.

Apogon kallopterus Bleeker, 1856

カスリイシモチ (Fig. 2)

Apogon kallopterus Bleeker, 1856: 33 [type locality: Manado, Sulawesi (Celebes), Indonesia]; 国安, 1999: 12 (屋久島町栗生); Yoshida et al., 2010: 38, fig. 15 (Isso, Yaku-shima Island).

標本 CMNH-ZF 15647, 体長 82.8 mm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊タンク下 (30°27'17"N, 130°29'29"E), タモ網, 2006年7月11日.

記載 背鰭条数 VI-I, 9; 臀鰭条数 II, 8; 胸鰭条数 14; 腹鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 24; 側線上方の横列鱗数 2; 側線下方の横列鱗数 6; 背鰭前方鱗数 5; 尾柄周鱗数 12; 総鰓耙数 $4+14=18$; 櫛歯状に発達した鰓耙数 $1+9=10$. 尾柄後端やや上方に黒色斑がある. 1黒色線が吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する.

固定標本の色彩 体全体は黒色がかった枯草色であるが, 第2背鰭基底部に鞍掛状に黒色素胞が密に分布する. 尾柄後端やや上方に黒色斑がある. 吻端から鰓蓋後端を経て体側中央を通り尾柄中央まで達する1本の黒色線がある. 第1背鰭全体が黒色, 第2背鰭は基底付近と先端の鰭膜に黒色素胞が密に分布する. 胸鰭は透明. 腹鰭第1棘から第2軟条にかけて黒色を帯びる. 臀鰭は透明であるが, 基底付近と先端の鰭膜に黒色素胞が密に分布する. 尾鰭は透明で上下両葉の縁辺は黒い.

備考 本種はインド・西部太平洋域に広く分布する (Allen et al., 2005; Randall, 2005). 日本では八丈島 (Senou et al., 2002), 小笠原諸島 (Randall

et al., 1997; 林, 2000), 和歌山県 (林, 2000), 屋久島 (国安, 1999; Yoshida et al., 2010; 本研究), 伊江島 (Senou et al., 2006), 沖縄島 (吉郷・中村, 2003; 吉郷ほか, 2005), 渡嘉敷島 (渡井ほか, 2009), 宮古島 (Senou et al., 2007) および西表島 (林・岸本, 1983) から報告されている。

カスリイシモチの屋久島における記録は水中写真に基づくもののみ (Yoshida et al., 2010: fig. 15) であったため, 本報告は標本に基づく本種の屋久島初記録である。



Fig. 2. Preserved specimen of *Apogon kallopterus*. CMNH-ZF 15647, 82.8 mm SL, Isso, Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan.

Apogon unicolor Jordan and Snyder, 1901

ハナイシモチ (Fig. 3)

Apogon unicolor Jordan and Snyder, 1901: 749, pl. 33
(type locality: Yokohama, Japan).

標本 CMNH-ZF 13982, 体長 43.7 mm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊 (30°27'13"N 130°29'26"E), タモ網, 2005年10月31日。

記載 背鰭条数 VI-I, 9; 臀鰭条数 II, 8; 胸鰭条数 14; 腹鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 24; 側線上方の横列鱗数 3; 側線下方の横列鱗数 8; 背鰭前方鱗数 8; 尾柄周鱗数 16; 総鰓耙数 5+14=19; 櫛歯状に発達した鰓耙数 2+8=10。上顎後端は眼の後縁に達する。前鰓蓋骨後縁は強い鋸歯状。体側に模様はない。

生鮮時の色彩 体全体は赤褐色, 鱗縁は暗褐色である。背鰭は黄色がかった赤褐色であるが, 基底付近以外の鱗膜に黒色素胞が分布する。胸鰭は白色がかった赤色。腹鰭と臀鰭は黄色がかった赤褐色であるが, 後端に黒色素胞がやや密に分布

する。尾鰭は赤褐色で, 黒色素胞が密に分布する。

固定標本の色彩 体全体は淡黄褐色, 鱗縁は黒褐色である。吻端と体の背縁には黒褐色色素胞が密に分布する。胸鰭は透明。胸鰭以外の各鰭の黒色素胞も明瞭に残る。

備考 *Apogon unicolor* は Steindachner and Döderlein (1883) によって初めて学名として記載されたが, 彼らは同名義名を *A. bifasciatus* Rüppell, 1838 の新参異名として扱った。最初に学名として報告されたときに異名であったことから, Steindachner and Döderlein (1883) の *A. unicolor* は学名として適格であるための条件をみたしていない (動物命名法国際審議会, 2000: 条 11.6)。その後, Jordan and Snyder (1901) は, *A. unicolor* を Döderlein の未公表名 (原稿名) として扱い, 横浜から採集された 1 標本に基づき *A. unicolor* を改めて新種として記載した。したがって, 本研究では *A. unicolor* の命名者と原記載を Jordan and Snyder (1901) として扱う。

林 (1988) はハナイシモチの特徴として第 1 背鰭棘数を 6 本と記載したが, 同出版物中のアカネテンジクダイ *A. talboti* Smith, 1961 (*A. crassiceps* Garman, 1903 として報告) の記載中では, ハナイシモチの第 1 背鰭棘数を 7 本とし, 6 本のアカネテンジクダイと区別できるとした。その後, 林 (2000) もハナイシモチの第 1 背鰭棘数を 7 本とした。しかし, *A. unicolor* の原記載や本研究で調査したハナイシモチの標本, 第二著者が調査した標本 (下記参照) はすべて 6 本であり, 上記の 7 本という記載は誤りであると考えられる。

ハナイシモチは台湾と日本に分布する (林, 2000)。林 (2000) は本種の国内における分布を神奈川県以南としたが, 本報告の第 2 著者によって, 千葉県鴨川市磯村地先から採集された標本 (CMNH-ZF 12468) がハナイシモチと同定された。同様に, 神奈川県三崎港 (YCM-P 42097), 静岡県沼津市若松崎 (YCM-P 18879), 高知県 (HUMZ 171753) および高知県柏島 (YCM-P 29716) から採集された標本もハナイシモチと同定された。したがって本種は千葉県から屋久島にかけての南日本太平洋岸に広く分布することが示唆される。



Fig. 3. Fresh specimen of *Apogon unicolor*. CMNH-ZF 13982, 43.7 mm SL, Isso, Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Photo by M. Aizawa.

Apogonichthyoides cf umbratilis Fraser and Allen, 2010
和名なし (Fig. 4)

Apogonichthyoides umbratilis Fraser and Allen, 2010:
45, figs. 2A–D (type locality: between Port Hedland
and Dampier, Western Australia, Australia, 19°39'S,
116°22'E).

標本 CMNH-ZF 13824, 体長 21.4 mm, 鹿児島
県熊毛郡屋久島町一湊 (30°27'13"N 130°29'
26"E), タモ網, 2005年10月27日。

記載 背鰭条数 VII-I, 9; 臀鰭条数 II, 8; 胸
鰭条数 14; 腹鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 23; 側
線上方の横列鱗数 2; 側線下方の横列鱗数 6; 背
鰭前方鱗数 2; 尾柄周鱗数 12; 総鰓耙数
4+11=15; 櫛歯状に発達した鰓耙数 1+8=9。眼後
部に放射状に伸びる黒褐色線が 3 本ある。体側に
7 本の不明瞭な暗赤褐色の横帯がある。

固定標本の色彩 体全体は枯草色, 頭部と体
の背縁には黒色素胞がやや密に分布する。眼後部
に放射状に伸びる黒褐色線が 3 本ある。体側に 7
本の不明瞭な暗赤褐色の横帯がある。第 1 背鰭は
黒色素胞が全体的に分布するが, 第 3 棘から第 5
棘の先端付近は密に分布する。第 2 背鰭は基底付
近と先端の鰭膜に黒色素胞が分布する。腹鰭は全
体的に黒色素胞が分布する。臀鰭は透明で, 基底
付近と先端の鰭膜に黒色素胞が分布する。胸鰭と
尾鰭は透明。

備考 本種は国外では西部オーストラリア, イ
ンドネシア, ブルネイおよびパラオから記録され

ている (Fraser and Allen, 2010)。日本では高知県
室手 (平田, 2010) および屋久島 (本研究) から
報告されている。

日本における本種の分類学的研究は横須賀市
自然・人文博物館の林 公義氏によって行われて
いる。



Fig. 4. Preserved specimen of *Apogonichthyoides cf umbratilis*. CMNH-ZF 13824, 21.4 mm SL, Isso, Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan.

Cercamia eremia (Allen, 1987)

サクラテンジクダイ (Fig. 5)

Rhabdamia eremia Allen, 1987: 4, Fig. 2 (type
locality: South Murion Island, Western Australia,
Australia, 21°42'S, 114°20'E).

標本 CMNH-ZF 13908, 体長 25.1 mm, 鹿児島
県熊毛郡屋久島町湯泊 (30°13'43"N,
130°28'30"E), タモ網, 2005年10月29日;
CMNH-ZF 13980, 体長 24.5 mm, 鹿児島県熊毛
郡屋久島町一湊 (30°27'13"N, 130°29'26"E), タ
モ網, 2005年10月31日。

記載 背鰭条数 VI-I, 9; 臀鰭条数 II, 11–12;
胸鰭条数 10; 腹鰭条数 I, 5; 側線鱗数 23; 背鰭
前方鱗数 6; 尾柄周鱗数 12; 総鰓耙数 3+12=15;
櫛歯状に発達した鰓耙数 1+11–12=12–13。後側頭
骨に顕著な棘を有する。

生鮮時の色彩 体は透明で, 淡橙色素が全体
に分布する。頭部には淡橙色素がやや密に分布す
る。背鰭, 腹鰭および臀鰭は透明であるが, 基底
付近の鰭膜に淡橙色素が分布する。胸鰭は透明で
あるが, 淡橙色素がやや密に分布する。尾鰭は透明。

固定標本の色彩 体全体は白色，眼上部と後部に黒色素胞がわずかに分布する．各鱗は透明．

備考 本種はインド・西部太平洋に広く分布する (Allen et al., 2005)．日本では八丈島 (Senou et al., 2002)，静岡県 (Hayashi, 1991)，和歌山県 (Hayashi, 1991)，徳島県 (藍澤・瀬能, 1991；Hayashi, 1991)，屋久島 (本研究)，奄美大島 (Hayashi, 1991)，瀬底島 (Hayashi, 1991)，沖繩島 (吉郷ほか, 2001)，伊江島 (Senou et al., 2006)，宮古島 (Senou et al., 2007) および西表島 (Hayashi, 1991) から報告されている．



Fig. 5. Fresh specimen of *Cercamia eremia*. CMNH-ZF 13908, 25.1 mm SL, Yudomari, Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Photo by M. Aizawa.

Fowleria vaiulae (Jordan and Seale, 1906)

シボリダマシ (Fig. 6)

Foa vaiulae Jordan and Seale, 1906: 249, fig. 43 (type locality: Apia, Upolu Island, Western Samoa).

標本 CMNH-ZF 13816, 体長 36.7 mm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊 (30°27'13"N 130°29'26"E), タモ網, 2005年10月27日.

記載 背鰭条数 VII-I, 9；臀鰭条数 II, 8；胸鰭条数 13；腹鰭条数 I, 5；側線有孔鱗数 10；側線上方の横列鱗数 2；側線下方の横列鱗数 6；背鰭前方鱗数 5；尾柄周鱗数 12；総鰓耙数 3+12=15；櫛歯状に発達した鰓耙数 5．側線は不完全で第2背鰭下までしか達しない．主鰓蓋骨上方に黒色円斑がない．眼後部に放射状に伸びる黒褐色線が3本ある．体側に7本の不明瞭な暗赤褐色の横帯がある．

固定標本の色彩 体全体は淡黄色，頭部と体の背縁には黒色素胞がやや密に分布する．眼後部

に放射状に伸びる黒褐色線が3本ある．体側に7本の不明瞭な暗赤褐色の横帯がある．

備考 本種はインド・西部太平洋に分布する (Gon and Randall, 2003; Randall, 2005)．日本国内では徳島県以南 (林, 2000)，屋久島 (本研究) および宮古島 (Senou et al., 2007) から報告されている．

本研究では Gon and Randall (2003) に従い，シボリダマシの学名を *Fowleria vaiulae* とした．



Fig. 6. Preserved specimen of *Fowleria vaiulae*. CMNH-ZF 13816, 36.7 mm SL, Isso, Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan.

Gymnapogon philippinus Herre, 1939

ナンヨウクダリボウズギス (Fig. 7)

Gymnapogon philippinus Herre, 1939: 200 (type locality: tidepool at Nasugbu, Batangas Province, Luzon, Philippines).

標本 CMNH-ZF 13983, 体長 25.9 mm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町一湊 (30°27'13"N 130°29'26"E), タモ網, 2005年10月31日.

記載 背鰭条数 VI-I, 9；臀鰭条数 II, 8；胸鰭条数 14；腹鰭条数 I, 5；総鰓耙数 5+8=13；櫛歯状に発達した鰓耙数 1+8=9．前鰓蓋骨に1本の棘がある．体表に鱗はない．

生鮮時の色彩 体全体と各鱗は透明．

固定標本の色彩 体全体は白色，各鱗は透明．

備考 本種は西部太平洋に広く分布する (林, 2000)．日本国内では，屋久島 (本研究)，沖繩島 および西表島 (林, 2000) から記録されている．

ナンヨウクダリボウズギスは屋久島で採集さ

れた本標本1個体によって、従来の報告より約430 km 北限を更新した。



Fig. 7. Fresh specimen of *Gymnapogon philippinus*. CMNH-ZF 13983, 25.9 mm SL, Isso, Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. Photo by M. Aizawa.

謝辞

本研究を行うにあたり、標本を調査する機会を頂いた千葉県立中央博物館・海の博物館の川瀬裕司博士には深謝する。標本の作製・登録作業などを手伝ってくださった鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの伊東正英氏、高山真由美女史、原口百合子女史に厚くお礼を申し上げる。本原稿に対し適切な助言を下された鹿児島大学大学院連合農学研究所の荻原豪太氏、松沼瑞樹氏ならびに目黒昌利氏、鹿児島大学大学院水産学研究所の山下真弘氏、鹿児島大学水産学部の岩坪洗樹氏、太田竜平氏ならびに大橋祐太氏に感謝する。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と国立科学博物館の「黒潮プロジェクト（浅海性生物の時空間分布と巨大海流の関係を探る）」の一環として行われた。

引用文献

- 藍澤正宏・瀬能 宏. 1991. 徳島県牟岐町およびその周辺の浅海性魚類相. 徳島県立博物館研究報告, (1): 73-208.
- Allen, G. R. 1987. New Australian fishes. Part 2. Four new species of Apogonidae. *Memoirs of Museum Victoria*, 48(1): 3-8.
- Allen, G., R. C. Steene, P. Humann and N. Deloach. 2005. Reef fish identification - tropical Pacific. New World Publications Inc., Jacksonville. 457 pp.
- 新井良一・井田 齊. 1975. 屋久島・種子島の海産魚類相. 国立科学博物館専報, (8): 183-204.
- Bleeker, P. 1856. Beschrijvingen van nieuwe of weinig bekende vischsoorten van Manado en Makassar, grotendeels verzameld op eene reis naar den Molukschen Archipel in het gevolg van den Gouverneur Generaal Duymaer van Twist. *Acta Societatis Regiae Scientiarum Indo-Néerlandicae*, 1: 1-80.

- 動物命名法国際審議会. 2000. 国際動物命名規約. 第4版. 日本語版. 日本動物分類学関連学会連合, 札幌. xviii + 133 pp.
- Fraser, T. H.. 2005. A review of the species in the *Apogon fasciatus* group with a description of a new species of cardinalfish from the Indo-West Pacific (Perciformes: Apogonidae). *Zootaxa*, 924: 1-30.
- Fraser, T. H.. 2008. Cardinalfishes of the genus *Nectamia* (Apogonidae, Perciformes) from the Indo-Pacific region with descriptions of four new species. *Zootaxa*, 1691: 1-52.
- Fraser, T. H. and G. R. Allen. 2010. Cardinalfish of the genus *Apogonichthyoides* Smith, 1949 (Apogonidae) with a description of a new species from the West-Pacific region. *Zootaxa*, 2348: 40-56.
- Greenfield, D. W., R. C. Langston, and J. E. Randall. 2005. Two new cardinalfishes of the Indo-Pacific fish genus *Zoramia* (Apogonidae). *Proceedings of California Academy of Sciences*, 56(33): 625-637.
- Gon, O. and J. E. Randall. 2003. A review of the cardinalfishes (Perciformes: Apogonidae) of the Red Sea. *Smithiana Bulletin*, 1: 1-48.
- 林 公義. 1988. テンジクダイ科, pp. 139-147, pls. 129-133. 益田 一・天岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編). 日本産魚類大図鑑. 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- Hayashi, M. 1991. Redescription of *Cercamia eremia* (Perciformes: Apogonidae) from Japan, with comments of the osteological characters. *Science Report of the Yokosuka City Museum*, (39): 35-44.
- 林 公義. 2000. テンジクダイ科, pp. 750-779, 1553-1555. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定 第二版. 東海大学出版会, 東京.
- 林 公義. 2004. 日本(琉球列島)初記録のテンジクダイ科魚類, *Apogon albomarginata*. 横須賀市博物館研究報告, (51): 46-52.
- 林 公義・岸本浩和. 1983. 西表島(琉球列島)産魚類Ⅲ. テンジクダイ科(テンジクダイ亜科). 横須賀市博物館研究報告, (31): 15-46, pls. 2-8.
- Herre, A. W. C. T. 1939. A new Henicichthys from the Philippines. *Copeia*, 1939(4): 199-200.
- 平田智法. 2010. テンジクダイ属の1種. 高木基裕・平田智法・平田しおり・中田 親(編), p. 115. えひめ愛南お魚図鑑. 創風社出版, 松山.
- 平田智法・山川 武・岩田明久・真鍋三郎・平松 亘・大西信弘. 1996. 高知県柏島の魚類相 — 行動と生態に関する記述を中心として —. 高知大学海洋生物教育研究センター研究報告, (16): 1-177.
- 市川 聡・砂川 聡・松本 毅. 1992. 屋久島産魚類の概観, pp. 19-46. 屋久島沿岸海洋生物調査団(編). 屋久島沿岸海洋生物学術調査報告書.
- Jordan, D. S. and A. Seale. 1906. The fishes of Samoa. Description of the species found in the archipelago with a provisional check-list of the fishes of Oceania. *Bulletin of the Bureau of Fisheries*, 25: 173-455, pls. 33-53.

- Jordan, D. D. and J. O. Snyder. 1901. List of fishes collected in 1883 and 1855 by Pierre Louis Jouy and preserved in the United States National Museum, with descriptions of six new species. *Proceeding of the United States National Museum*, 23(1235): 739–769, pls. 31–38.
- Jordan, D. S. and E. C. Starks. 1906. List of fishes collected on Tanega and Yaku, offshore island of southern Japan, by Robert van Vleck Anderson, with descriptions of seven new species. *Proceeding of the United States National Museum*, 30(1462): 695–706.
- Kamohara, T. and T. Yamakawa. 1965. Fishes from Amami-oshima and adjacent regions. *Reports of the Usa Marine Biological Station*, 15(2): 1–17.
- 国安俊夫 (編). 1999. 生態系多様性地域調査 (屋久島沿岸海域) 報告書. 環境庁自然保護局・鹿児島自然愛護協会. 64 pp.
- Mabuchi, K., N. Okuda, T. Kokita and M. Nishida. 2003. Genetic comparison of two color-morphs of *Apogon properuptus* from southern Japan. *Ichthyological Research*, 50(3): 293–296.
- Mabuchi, K., N. Okuda and M. Nishida. 2004. Genetic differentiation between two color morphs of *Apogon taeniophorus* from southern Japan. *Ichthyological Research*, 51(2): 180–183.
- Matsuura, K. and H. Tachikawa. 1994. Fishes washed up on beaches in Chichi-jima, Ogasawara Island. *Bulletin of the Natural Science Museum, Series A, Zoology*, 20(3): 131–147.
- 宮原 一・吉野哲夫・仲谷一宏. 2005. 西表島での分布が確認された日本初記録のテンジクダイ科魚類フタスジアカヒレイシモチ (新称) *Apogon rhodopterus*. *魚類学雑誌*, 52(2): 147–151.
- Nelson, J. S. 2006. *Fishes of the world*. Fourth edition. John Wiley & Sons, Inc., New Jersey. xv + 601 pp.
- Randall, J. E. 2005. Reef and shore fishes of the South Pacific. New Caledonia to Tahiti and Pitcairn Islands. University of Hawai'i Press, Honolulu. xii + 707 pp.
- Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle and J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes on the Ogasawara Islands. *National Science Museum of Nature and Science Monographs*, (11): 1–74, pls. 1–19.
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (36): 47–74.
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of Ie-jima Island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (35): 67–92.
- Senou, H., G. Shinohara, K. Matsuura, K. Furuse, S. Kato and T. Kikuchi. 2002. Fishes of Hachijo-jima Island, Izu Islands Group, Tokyo, Japan. *Memoirs of the National Science Museum*, (38): 195–237.
- Steindachner, F. and L. Döderlein. 1883. Beiträge zur kenntniss der fische Japan's. (II.). *Denkschriften der Mathematisch-Naturwissenschaftlichen Classe der Kaiserlichen Akademie der Wissenschaften in Wien*, 48: 1–40, pls. 1–7.
- 渋川浩一・高田陽子・篠原現人. 2007. 奄美大島より得られた日本初記録のテンジクダイ科カクシヤットゲテンジクダイ (新称). *魚類学雑誌*, 54(2): 219–223.
- Valenciennes, A. 1832. Descriptions de plusieurs espèces nouvelles de poissons du genre *Apogon*. *Nouvelles Annales du Muséum d'Histoire Naturelle (Paris)*, 1: 51–60, pls. 1–4.
- Yoshida, T., S. Harazaki and H. Motomura. 2010. Apogonid fishes (Teleostei: Perciformes) of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan, pp. 27–64. In H. Motomura and K. Matsuura (eds.). *Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan*. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 吉田朋弘・本村浩之. 2009. 屋久島から得られたテンジクダイ科魚類アマミイシモチ *Apogon amboinensis*. *南紀生物*, 51(2): 96–98.
- 吉郷英範・内藤順一・中村慎吾. 2001. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (2): 119–168.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2002. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (II). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (3): 85–136, pl. 1.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (4): 31–75, pl. 1.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (5): 1–51, pl. 1.
- 吉郷英範・吉野哲夫. 2004. 西表島で採集された日本初記録のヒルギヌメリテンジクダイ (新称). *伊豆海洋公園通信*, 15(5): 2–5.
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, (38): 119–132.